

2000年
五十年のあゆみ



栢崎新町附祭

『五十年のあゆみ』の発行にあたって

附祭委員長 類 家 栄 一

お祭り50年の歴史を調べるために3月初め図書館に行った。

「昭和20年頃のデーリー東北を見せてください」と言ったらフィルム化されたデーリー東北を渡された。

そのフィルムを幻燈機で昭和21年から順次写し出した。すると昭和25年になって初めて、柏崎新町の名前が出てきた。涙が出るほど嬉しかった。

「柏崎新町附祭」の誕生である。

この年から一回も休むことなく現在まで50年続いている。

当初の計画では、カラー写真入りの『50年誌』を作るはずであったが、予算の関係で今回は資料を集めるだけになった。

資料を集めていて一番情けなかったのは、自分達が親方二代目（1971年から30年間分）として造ったお祭りの写真を一部探すことができず、30年間分が完全に揃わなかった事である。

お祭りを造るだけで精一杯で、資料や写真をきちんと残す事まで手がまわらなかった二代目であったと深く反省している。

しかし、今回我々が資料として集められる分は集めたつもりである。この資料を基に70周年・100周年の時は立派な記念誌ができる様願っている。

今後とも『お祭りの燈』が消える事なく後輩達によって守り続けられると確信している。

パンフレットのような簡単な『五十年のあゆみ』の発行ではあるが、熱意だけは関係各位に御理解していただける様、そして柏崎新町附祭になお一層のご支援、ご協力をお願いする次第である。

「柏崎新町附祭五十周年」によせて

柏崎新町町内会長 久水英一

体に響く大太鼓・小太鼓の強烈なリズム。賑やかな中にも哀調を感じる笛のメロディー。子供たちの「ヤーレ、ヤーレ」の熱を帯びた掛け声と共に目の前をわが町内の附祭「陰陽師 安倍晴明」が通っていく。

あれから、三ヶ月たつが鮮やかに脳裏に刻まれている。この附祭がわが柏崎新町五十台目の力作であった。

柏崎新町の附祭が五十周年を迎え、本当におめでたいことである。関係者から心からお祝いとお礼を申し上げたい。

昭和25年初めて我が町内に附祭が登場して、一人前の町内になったような気がしたのは、私だけではないでしょう。あれから五十年になるんだな一とつくづく思う。

それまでは、柏崎新町の子供達は塩町、下大工町、下組町、或は廿八日町等の隣接町内の附祭に参加していた

親子代々で参加している子供さんは別にして、何となく肩身の狭い思いで参加している子供さんや、遠慮で参加しない子供さんもあったのだろうと想像される。

「何とか柏崎新町でも、附祭を作って子供達を喜ばせたい」そんな気持ちの方々が、一大決心で取り組んだと聞いている。

第一作「里見八犬伝」はこうして制作されたのである。

以来、絶えることなく五十台の附祭が製作され続けたのである。凄いことである。敬服してやまない。

この間に、五位一回、努力賞三回、奨励賞三回の計七回の入賞を果たしている。製作スタッフの努力の賜物である。心から拍手を贈りたい。

伝統を引き継ぎ、伝え続けることは、大切な文化の継承でもある。

五十台の製作主題を見ると、三十台造は激しい闘いの場が多く取り上げられている。そして、ここ最近二十台は、童話等子供の喜ぶような主題が圧倒的に多い。「子供達を喜ばせたい」そんな心遣いを感じて、心を熱くしているのは、私だけでないと思う。本当に嬉しいことである。

最初に製作に携わった現存の方は勿論、故人となられた方も、このように記念誌にしてくれた後輩に大きな拍手を贈り、又一緒に喜んで下さっているに違いない。

この記念すべき五十周年の年に、柏崎新町に居合わせた幸せをお互いに喜び合いたいものです。

現附祭委員長の類家栄一氏を初め、多くのスタッフの方々の御労苦に感謝し、今後もこの伝統を守り続けて下さるようお願いしたい。

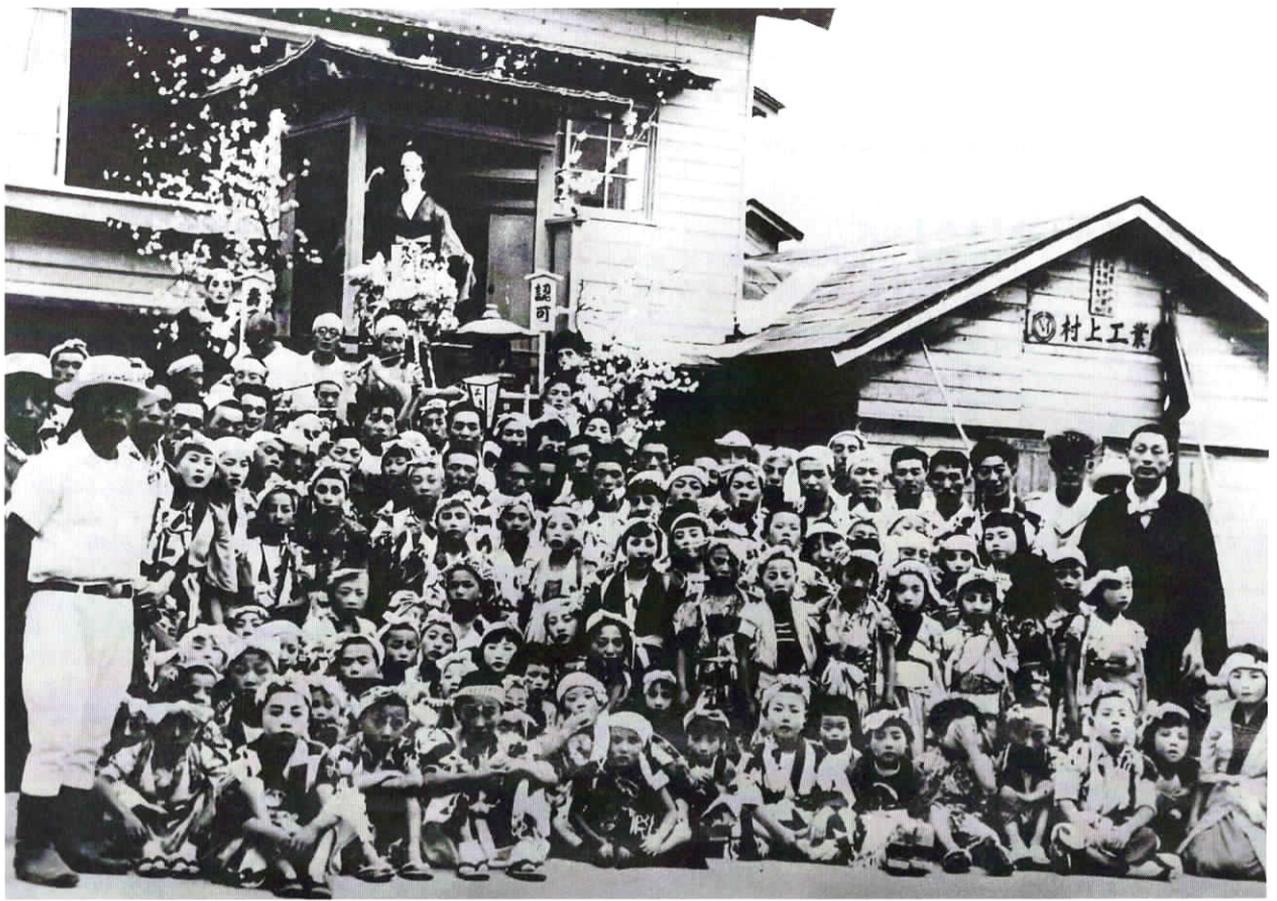
柏崎新町附祭のあゆみ

戦争のためお祭りが昭和十五年から一時中断する。
八戸市復興の願いを込め終戦の翌年には八戸三社大祭が再会される。

昭和21年9月1日 (1946年)		七台参加
昭和22年9月1日 (1947年)	十二台の中に湊柳町も参加する。	十二台参加
昭和23年9月1日 (1948年)		十一台参加
昭和24年9月1日 (1949年)		十二台参加
昭和25年9月1日 (1950年)	里見八犬伝 柏崎新町、吹上、鍛冶町、八幡町、二十八日町、下組町、塩町、六日町、下大工町、朔日町、十一日町、新荒町、二十六日町、十六日町 お祭りが好きで下大工町や塩町に参加していた連中が柏崎新町も「お祭り」で町内を一ツにするとの意気込みで「柏崎新町附祭」が結成され、この年から参加する。	十四台参加
昭和26年9月1日 (1951年)	三番叟 この年から観光協会が主体になり審査員による審査が始まる。	十三台参加
昭和27年9月1日 (1952年)	相馬大作 この年から「類家」が参加	十五台参加
昭和28年9月1日 (1953年)	双蝶々曲輪日記 合同酒精が「樽御興」で参加	十五台参加
昭和29年9月1日 (1954年)	勝相撲浮名花觸	十五台参加
昭和30年9月1日 (1955年)	弁慶 この年は「賞」が無かった。理由解らず。 お通りが雨のため一日順延となる。 この年から「本鍛冶町」「上組町」が参加	十七台参加
昭和31年9月1日 (1956年)	御所五郎蔵の内松の場 こども会が「えびす様」で参加 この年から「新組町」が参加	十九台参加
昭和32年9月1日 (1957年)	羅生門	十八台参加
昭和33年9月1日 (1958年)	連獅子 八幡町を「内丸」に改名する。 この年から「売市」が参加 この年から「二十八日町」が休みに入る。	十八台参加
昭和34年9月1日 (1959年)	土蜘蛛	十八台参加
昭和35年8月21日 (1960年)	道行初音の旅 台風を考慮し、この年から8月21日になる。	十八台参加
昭和36年8月21日 (1961年)	神霊矢口渡	十八台参加
昭和37年8月21日 (1962年)	鳴神上人 この年から「糠塚」が参加	十九台参加

昭和38年 8月21日 (1963年)	大蛇を退治する為朝 努力賞に入る。	十九台参加
昭和39年 8月21日 (1964年)	一寸法師鬼退治	十九台参加
昭和40年 8月21日 (1965年)	こぶとり爺さん	十九台参加
昭和41年 8月21日 (1966年)	加藤清正城攻めの場 この年から前夜祭始まる。	十九台参加 前夜祭会場 馬場町 堤町
昭和42年 8月21日 (1967年)	志渡浦玉取海女	十九台参加 前夜祭会場 馬場町 堤町
昭和43年 8月21日 (1968年)	成田不動と文覚上人	十九台参加 前夜祭会場 馬場町 堤町
昭和44年 8月21日 (1969年)	慈母観音	十九台参加 前夜祭会場 馬場町 堤町
昭和45年 8月21日 (1970年)	碓知盛 この年から「青年会議所」が参加	二十台参加 前夜祭会場 馬場町 堤町
昭和46年 8月21日 (1971年)	足柄山の怪童 鯉をとらえる金太郎 若者が集まらず継続不可能と判断し「附祭」を 一旦解散する。 が小田憲一(29才)を親方に選び再出発する。	二十台参加 前夜祭会場 長根公園
昭和47年 8月21日 (1972年)	須佐之男命の大蛇退治 この年から「月金」と「市職員」が参加	二十二台参加 前夜祭会場 長根公園
昭和48年 8月21日 (1973年)	妖怪九尾の狐退治 努力賞に入る この年から「淀」と「デーリー東北」が参加	二十三台参加 前夜祭会場 長根公園
昭和49年 8月21日 (1974年)	孫悟空 水蓮洞の闘い 努力賞に入る。 この年から「本鍛冶町」が休みに入る。	二十三台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和50年 8月21日 (1975年)	忍法龍虎の対決 この年から「城下」が参加	二十三台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和51年 8月21日 (1976年)	西遊記 牛魔王との闘い 「青年会議所」が休みに入り 「青山会」が参加	二十四台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和52年 8月21日 (1977年)	五大明王	二十四台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和53年 8月21日 (1978年)	西遊記 金角銀角大魔王との闘い この年から「新井田」が参加	二十五台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和54年 8月21日 (1979年)	水滸伝 梁山泊の闘い この年から「三菱製紙」が参加 この年から「デーリー東北」が休みに入る。	二十五台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和55年 8月21日 (1980年)	男鹿の赤神 竜飛の黒神 十和田湖上の闘い	二十四台参加 前夜祭会場 16日町~26日町
昭和56年 8月21日 (1981年)	花咲爺さん	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和57年 8月1日 (1982年)	川中島の戦い この年から8月1日となる。 この年から中日に夜の合同運行が始まる。	二十三台参加 前夜祭会場 市庁前広場

昭和58年8月1日 (1983年)	宇治川の合戦 先陣争い この年「丸光」が参加。翌年から休み。	二十六台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和59年8月1日 (1984年)	ひよどり越えの合戦	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和60年8月1日 (1985年)	本能寺の変 この年から「三菱製紙」が休みに入る。 この年から「長横町」が参加	二十四台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和61年8月1日 (1986年)	一寸法師	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和62年8月1日 (1987年)	浦島太郎	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
昭和63年8月1日 (1988年)	かぐや姫	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成元年8月1日 (1989年)	十和田湖伝説 南祖坊と八郎太郎の闘い	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成2年8月1日 (1990年)	足柄山の金太郎 奨励賞に入る この年から「吉田産業」が参加	二十六台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成3年8月1日 (1991年)	桃太郎の鬼退治	二十六台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成4年8月1日 (1992年)	因幡の白兔	二十五台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成5年8月1日 (1993年)	雲上天界 この年から「共作連」が参加	二十七台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成6年8月1日 (1994年)	三国志	二十七台参加 前夜祭会場 市庁前広場
平成7年8月1日 (1995年)	西遊記 金角銀角との闘い 8月18日親方の小田憲一(53才)夭折。 奨励賞に入る。 この年から「月金」が休みに入る。	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心
平成8年8月1日 (1996年)	七夕伝説 織女と牽牛	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心
平成9年8月1日 (1997年)	西遊記 牛魔王との闘い	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心
平成10年8月1日 (1998年)	足柄山の金太郎 奨励賞に入る。	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心
平成11年8月1日 (1999年)	桃太郎	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心
平成12年8月1日 (2000年)	陰陽師 安倍晴明	二十六台参加 前夜祭会場 三日町が中心



昭和26年 三番叟



昭和32年 羅生門



昭和34年 土蜘蛛



昭和38年 大蛇を退治する為朝



昭和40年
コブとり爺さん



昭和42年 志渡浦玉取海女



昭和44年 慈母観音



昭和45年 碓知盛



昭和46年 足柄山の怪童 鯉をとらえる金太郎



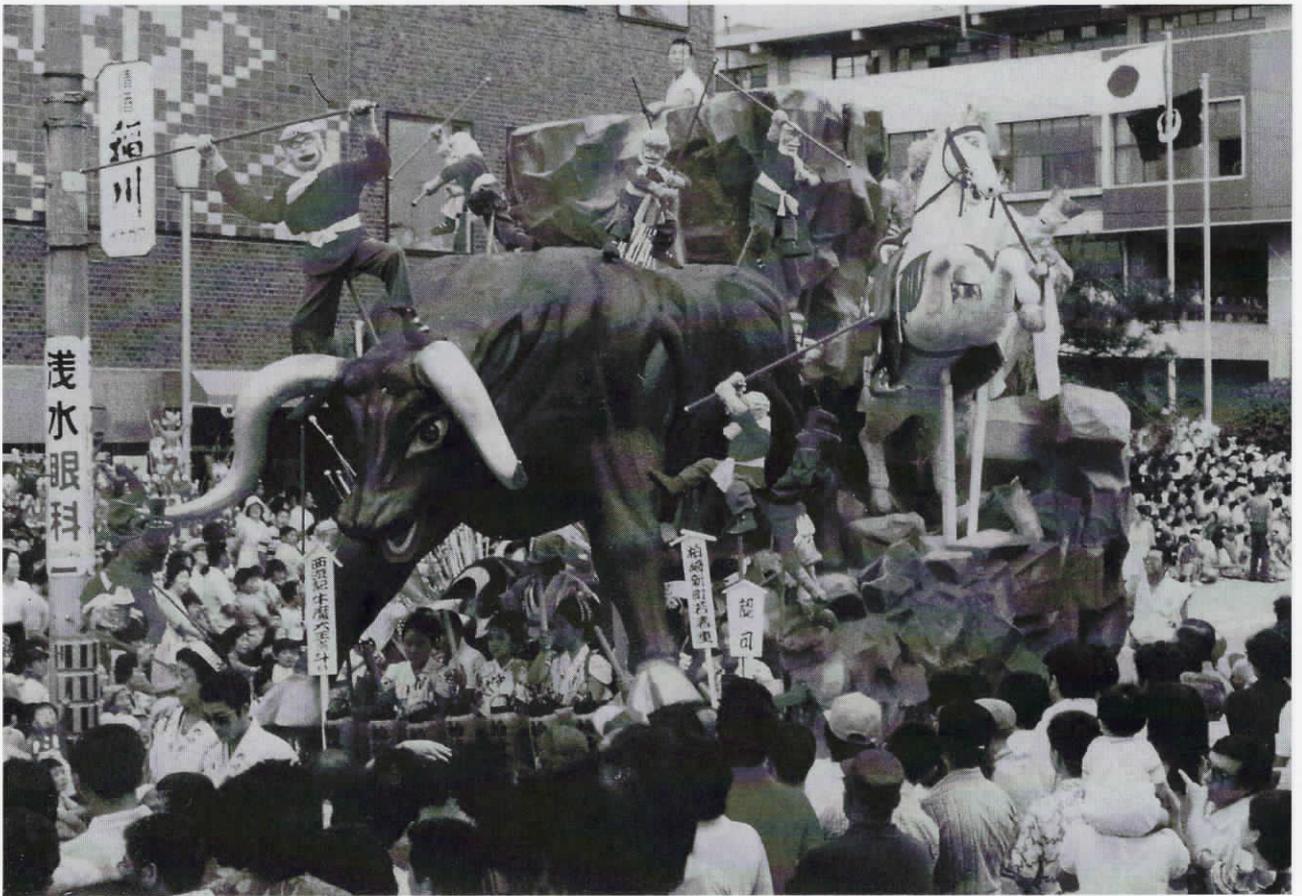
昭和48年 妖怪九尾の狐退治



昭和49年 孫悟空 水蓮洞の闘い



昭和50年 忍法龍虎の対決



昭和51年 西遊記 牛魔王との斗い



昭和52年 五大明王



昭和54年 水滸伝 梁山泊の闘い



昭和55年 男鹿の赤神 竜飛の黒神 十和田湖上の斗い



昭和56年 花咲爺さん



昭和57年 川中島の戦い



昭和58年 宇治川の合戦 先陣争い



昭和59年 ひよどり越えの合戦



昭和60年 本能寺の変



昭和61年 一寸法師



昭和62年 浦島太郎



昭和63年 かぐや姫



平成元年 十和田湖伝説 南祖坊と八郎太郎の闘い



平成2年 足柄山の金太郎



平成3年 桃太郎の鬼退治



平成4年 因幡の白兔



平成5年 雲上天界



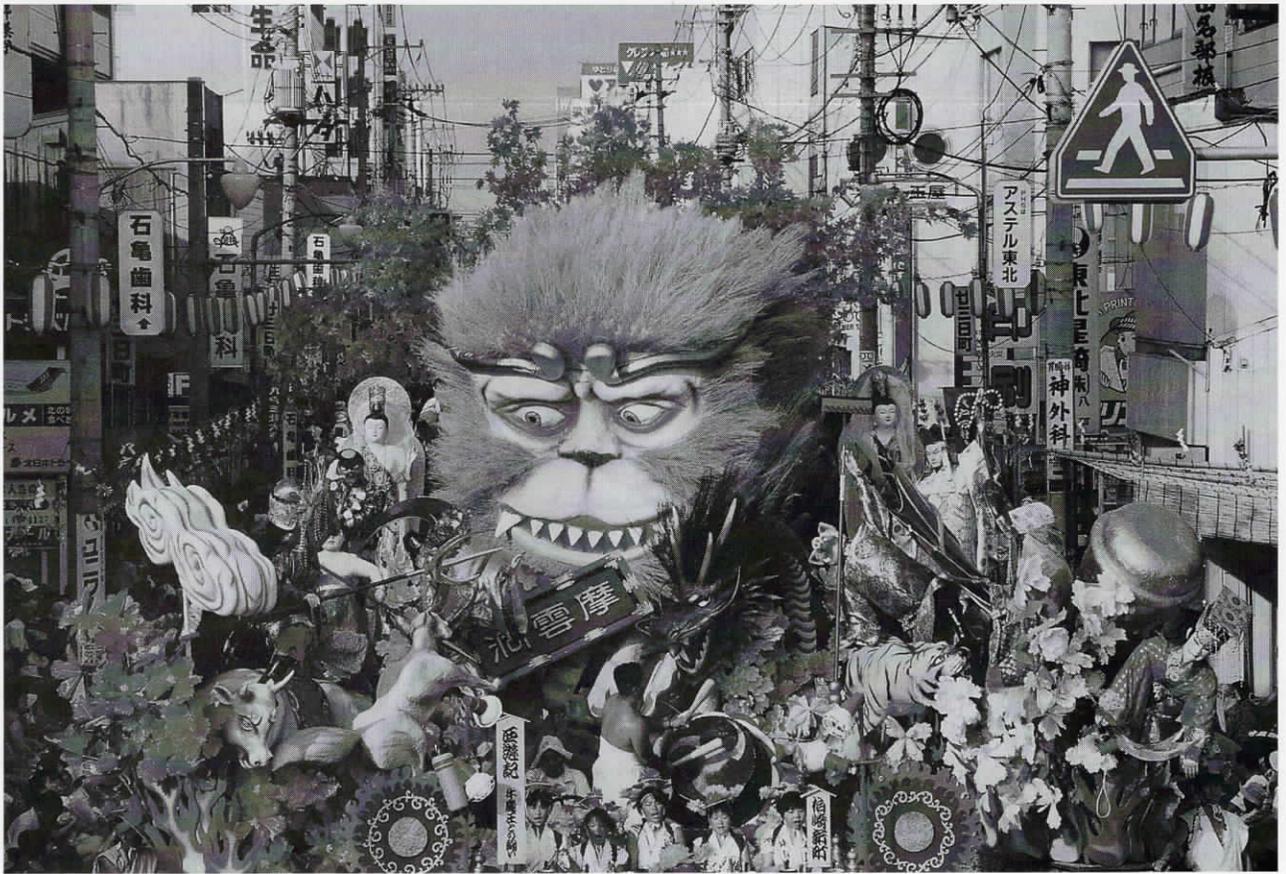
平成6年 三国志



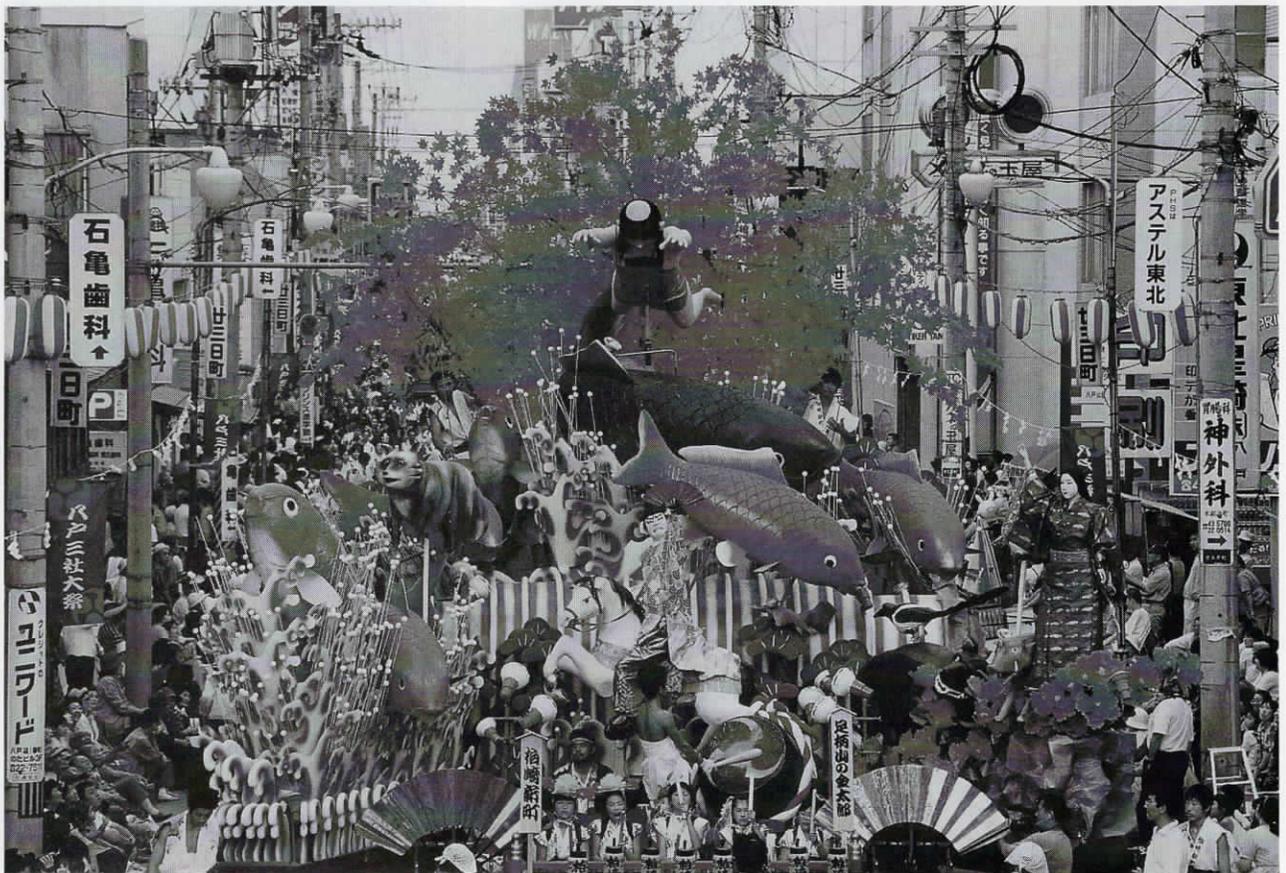
平成7年 西遊記 金角銀角との闘い



平成8年 七夕伝説 織女と素牛



平成9年 西遊記 牛魔王との闘い



平成10年 足柄山の金太郎



平成11年 桃太郎



平成12年 陰陽師 安倍晴明

編集後記

多くの方々に支えられて過ぎた50年。その方々のご労苦を思い記念誌の作成にとりかかったものの、50周年にふさわしい山車づくりや、祝賀会の準備と同時進行のため時間がない、予算がない、そして肝心の写真や資料がないと頭を悩ませながらの本誌の完成でした。写真を提供して下さった方々をはじめ多くのスタッフに心から感謝し、この先末永くおまつりが続く様（資料をきちんと残しながら）心から祈念し、編集後記と致します。

平成12年10月

「柏崎新町附祭50年」委員会

委員長 類 家 栄 一

スタッフ

類 家 栄 一	梶 澤 弘 治	佐々木 達 三	二本柳 恭 敬
下 沢 雄	菅 沼 章 芳	岩 渕 善 久	下 沢 忠
森 山 浩 幸	中 村 弘 明	羽 瀬 勝 司	石 鉢 恵 一
類 家 雅 敏	岩 渕 隆	小 坂 健 一	類 家 理
高 橋 博	本 多 誠	日 野 功	坂 本 秀 樹